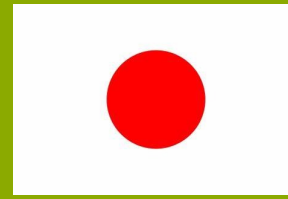


ウガンダの真珠



UGANDA NATURAL
JAPAN NATURAL AGRICULTURE



国際連合工業開発機関2022年3月16日





はじめまして！

☕ 自己紹介 ☕

木下正義と申します
名古屋生まれ
名古屋育ち



- 商号：株式会社クリスタル（旧 勝原コーヒー）
- 本社：愛知県名古屋市中川区四女子町4丁目106番地
- 代表：木下 正義
- 設立：昭和63年8月（勝原コーヒー昭和53年4月）
- 決算：7月末
- 本社：愛知県名古屋市中川区四女子町4-70
- 製造場：愛知県名古屋市中川区万場4-106
- 工場：愛知県名古屋市守山区下志段味
- 種目：世界各国輸入コーヒー豆の加工・販売
アフリカ農産物の輸入販売
飲食店原料販売飲食店設備・備品販売
飲食店全般開業コンサルティング/農業
天然水製造・販売/漁業



大自然パラダイス

中央部にナイル河、南部にはビクトリア湖など豊富な水源



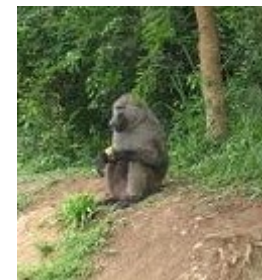
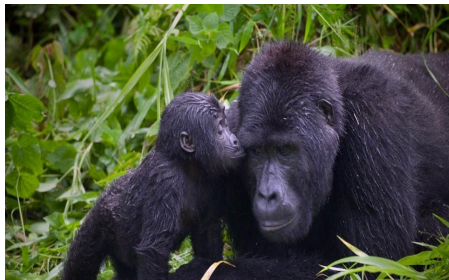
年平均気温 20℃ と快適な気候



平均標高 1000m



年平均降水量 1100mm と、植物にはもちろんのこと私たち動物にとっても最適な環境であり、見渡す限りの大自然が広がっております。ウガンダ共和国を訪れた英国の元首相チャーチルはその大自然の美しさから「アフリカの真珠」と評したほどです。



また、旅行雑誌である「地球の歩き方（世界版）」によると2012年度の“訪れてみたい国ランキング”では、世界一位の栄冠を獲得しております。



生産者の顔が見える貿易

株式会社クリスタルでは、BUFUMBOの間で国内における独占販売店契約を結んでおります。

- 会社名： BUFUMB ORGANIC FARMERS ASSOCIATION
事業内容： コーヒー栽培、
栽培品種： アラビカ種（ティピカ）／カネフォラ種
契約農園： 約326件
栽培地域： ムバレ県ブギス地区 マウント・エルゴン麓
栽培標高： 1800m～2,200m
精選方法： 水洗式（ウォッシュド）、非水洗式（ナチュラル）
規格： AA（S-18～）／A（S-15～17）／AB（S-12～14）／PB
選別方法： スクリーンなど
栽培種類： アラビカ種・カネフォラ種





なぜ美味しいのか

1

肥沃な土地と自然環境



契約農園がある「エルゴン山」は、年平均気温18℃～20℃、年間降水量1200mmとアラビカ種栽培に最も適した気候。また、「エルゴン山」は約400年前に噴火しました、降り注いだ火山灰とマグマによりなぎ倒された木々、元々その土地にある土と植物とが混ざり合い、長い年月を経て栄養素の高い窒素、リン、カリウム、ミネラルを多く含んだ肥沃な土（黒土）ができました。アラビカ種栽培に適した気候と土壌、そしてウガンダの大自然の恵みによって、農薬などの薬品を使用しない自然栽培が可能になりました。

2

ハンドピック



人手による収穫は、その他の収穫方法に比べ収穫コストが高価になりますが、人手による収穫を行うことで、赤く完熟したコーヒーチェリーを選んで積んでいくことができ、収穫した果実の熟度のばらつきを少なくすることができます。また、異物（枝、葉、石、地面に落ちている果実など）の混入も軽減することができることから、品質上最も好ましい方法だと考えております。



② アフリカ・バニラ・ビーンズへの挑戦 2018～



きっかけは福岡の NPO 法人のこんな一言だった

ウガンダで
生産者支援
をするNPO



一般的な野菜や果物を作っても生産者の生活はいっこうに豊かにならない・・・

現在、バニラビーンズに挑戦中！

そのNPOは、ウガンダで生産者を支援していました。そのウガンダの地域ではトウモロコシを作っていました。現地では、トウモロコシが非常に安価。生活は苦しいままです。

「付加価値があり需要もある食品・・・？」と考えて私の頭の中に浮かんだのがバニラビーンズ！
バニラビーンズの栽培を行うことを提案し、そのNPO支援の中、2018年300株が植えられました。



バニラ収穫風景



収穫直後のバニラビーンズ



③ アフリカ・ハーブ・アロマ



神奈川のNPOからいただいたご相談

ウガンダでハーブ栽培と環境保全をするNPO



現地のハーブやそのオイルでつくるアロマの品質を日本で製品化して広めたい！

現在、バニラビーンズに挑戦中！

このNPOでは、ウガンダのハーブであるレモングラスを栽培して、現地の環境保全や収入向上を目指しています。お聞きすると、しかし、現地のハーブやアロマは品質が劣っているという状況がありました。そこでクリスタルが国内農業で培ったハーブ栽培の技術と加工技術を現地の女性農家に提供することにしました。現在、製品化するまでのプロセスを共同で行なっています。この中で、女性のエンパワーメントを行い、ジェンダ―格差の改善もしたいと考えています。



私たちの目指す農業（農法）は人里離れた自然豊かな環境が最適であることから、山間部が広がる岐阜県を中心に圃場を検索。約50カ所を視察して岐阜県大垣市上石津町の三町にある圃場を選択しました。



地方創生モデル

農業の素人である私たちにも栽培ができる産物は無いか？まずは、地元の生産者に相談をさせて頂くことから開始。数十種類の産物が候補にあがりました。その中で、最も栽培のしやすい産物としてあげられたのが「**ハーブ**」でした。

ハーブは病気にも強く、鳥獣被害にも合いにくい植物であり、なによりも生命力が強い植物であることから、農業経験や知識が無くとも比較的簡単に栽培を行える植物であるとのことでした。農業経験や知識を養う意味合いも含め、まずは栽培のしやすい「ハーブ」の栽培を始めることに決定いたしました。

12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう





最後に

食を通して、消費者とそこで暮らす人々に明るい未来を。
そのために私たちはこれからも様々な分野で活動していきます。



本日は、ご清聴いただきまして誠に
ありがとうございました。